11 調査書の記載

（1）推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ 等特別推薦、理数等特別推薦）における調査書点について

○　推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦、理数等特別推薦）では、観点別学習状況の評価（全２７観点）又は評定（９教科）のうち、どちらか一方を調査書点として点数化します。
以下の東京太郎さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京太郎さんの各教科の観点別学習状況の評価及び評定

教科	国語			社会			数学			理科			音楽		
観点別学習状況	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
評価	B	A	A	A	A	A	B	C	B	B	B	B	B	A	B
評定	4			5			2			3			3		

①　各学校の求める生徒の姿に応じて、観点別学習状況の評価を調査書点として点数化する学校の場合

- ９教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語（英語））の全２７観点の評価（A・B・C）を点数化します。
- 各教科の特定の観点を重視する学校（**都立A高校**）や、特定の教科を重視する学校（**都立B高校**）があります。

【 **都立A高校** 】　○ 観点別学習状況のうち、「主体的に学習に取り組む態度」を重視する学校
○ 調査書点の満点が１８０点

教科名		国語			社会			数学			理科			音楽		
評価の観点		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
都立A高校の配点	A	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10
	B	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▸　「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」１８０点を「調査書点の満点」１８０点に比例換算します。

【 **都立B高校** 】　○ 数学、理科、美術、技術・家庭の教科を重視する学校
○ 調査書点の満点が３９０点

教科名		国語			社会			数学			理科			音楽		
評価の観点		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
都立B高校の配点	A	5	5	5	5	5	5	10	10	10	10	10	10	5	5	5
	B	3	3	3	3	3	3	7	7	7	7	7	7	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▸　「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」１９５点を「調査書点の満点」３９０点に比例換算します。

②　評定を調査書点として点数化する学校（**都立C高校**）の場合

- ９教科の評定を点数化します。各教科に傾斜配点を設けません。

【**都立C高校** 】　○ 調査書点の満点が 450 点の場合

▸　**調査書点は、　450 点×33点÷４５点＝<u>３３０点</u>**　となります。

美 術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
B	A	B	A	A	A	A	B	B	A	A	A
3			5			3			5		

○ 各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価したもの
A:「十分満足できる」状況と判断されるもの
B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C:「努力を要する」状況と判断されるもの

各学校が調査書点を点数化するときに、観点別学習状況の評価と評定のうち、どちらを活用するかと、各学校が定める調査書点の満点が何点になるかについては、１１月上旬に発行予定の「令和６年度東京都立高等学校募集案内」に明示します。

〈重視する観点〉
A:１０点　B:3点　C:1点

〈その他の観点〉
A:5点　B:3点　C:1点

美 術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点の満点	調査書点の満点
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	１８０	１８０
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した１２７点となるので、
調査書点は、　１８０点×１２７点÷１８０点＝１２７点　となります。

「都立Ａ高校」を受検する場合の調査書点
１２７点

〈重視する教科の観点〉
A:１０点　B:7点　C:1点

〈その他の教科の観点〉
A:5点　B:3点　C:1点

美 術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点の満点	調査書点の満点
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
10	10	10	5	5	5	10	10	10	5	5	5	１９５	３９０
7	7	7	3	3	3	7	7	7	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した１５３点となるので、
調査書点は、　３９０点×１５３点÷１９５点＝３０６点　となります。

「都立Ｂ高校」を受検する場合の調査書点
３０６点

「都立Ｃ高校」を受検する場合の調査書点
３３０点

（2）学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）における調査書点について

○　学力検査に基づく入試では、評定を調査書点として点数化します。
○　調査書点は、次の表のとおり、学力検査を実施する教科の評定を１倍、学力検査を実施しない教科の評定を2倍して、算出します。

学力検査の教科	１倍する教科	２倍する教科	評定の満点
５教科（国・数・英・社・理）の場合	国・数・英・社・理	音・美・保体・技家	６５点
３教科（国・数・英）の場合	国・数・英	社・理・音・美・保体・技家	７５点

（注）「評定の満点」は、各教科の評定が全て「５」である場合

○　以下の東京花子さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京花子さんの各教科の評定

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語（英語）
５	４	３	３	３	４	５	３	５

①　学力検査を５教科（国・数・英・社・理）、学力検査の得点と調査書点の比率を「７：３」で実施する学校の場合

学力検査の得点と調査書点の合計点は１０００点になるので、学力検査の得点と調査書点の比率が「７：３」の場合、調査書点の満点は３００点となります。

- 学力検査を実施する教科（国・数・英・社・理）の評定の合計は、５＋３＋５＋４＋３＝２０点
- 学力検査を実施しない教科（音・美・保体・技家）の評定の合計は、（3＋4＋5＋3）×2＝３０点

これらを足すと、２０点＋３０点＝５０点　となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、
３００点×５０点÷６５点（評定の満点）＝<u>２３０点</u>　となります。※小数点以下が発生した場合は切り捨て

②　学力検査を３教科（国・数・英）、学力検査の得点と調査書点の比率を「６：４」で実施する学校の場合

学力検査の得点と調査書点の合計点は１０００点になるので、学力検査の得点と調査書点の比率が「６：４」の場合、調査書点の満点は４００点となります。

- 学力検査を実施する教科（国・数・英）の評定の合計は、５＋３＋５＝１３点
- 学力検査を実施しない教科（社・理・音・美・保体・技家）の評定の合計は、（4＋3＋3＋4＋5＋3）×2＝44点

これらを足すと、１３点＋４４点＝５７点　となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、
４００点×５７点÷７５点（評定の満点）＝<u>３０４点</u>　となります。※小数点以下が発生した場合は切り捨て

学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）では、上記のとおり、評定を調査書点として点数化しますが、エンカレッジスクール（３１ページ参照）では、各教科の観点別学習状況の評価を用いて調査書点を算出します。

（３）都立高校入試における中学校英語スピーキングテストの結果活用について

○　令和５年度入試から、スピーキングテストの結果を活用しています。

①　スピーキングテスト結果の都立高校への提出について

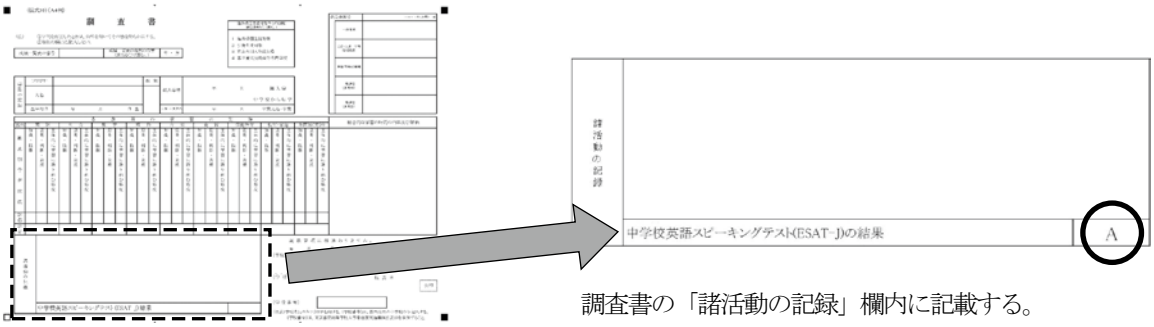
中学校は、スピーキングテスト結果として提供を受けた６段階の評価を、生徒の調査書に記載します。調査書は、生徒の志願先の都立高校へ提出します。

スピーキングテスト受験から結果を都立高校へ提出するまで

令和５年１１月２６日（日）
（予備日）１２月１７日（日）
スピーキングテスト

令和６年１月中旬以降
スピーキングテスト
個人及び中学校
スコアレポートの受取

令和６年２月上旬
都立高校へ
調査書の提出



調査書の「諸活動の記録」欄内に記載する。

②　スピーキングテスト結果の都立高校入試における活用区分について

スピーキングテスト結果は、第一次募集・分割前期募集において活用します。
（エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校は対象外です。）

③　評価の点数化について

都立高校ではＡからＦまでの６段階で提出された評価を、次の表のとおり、２０点満点の点数として取り扱います。

スピーキングテスト結果（評価）	A	B	C	D	E	F
都立高校で取り扱う点数	２０点	１６点	１２点	８点	４点	０点

④　総合得点の算出について

都立高校では、学力検査の得点と調査書点の合計（１０００点満点）にスピーキングテスト結果の点数を加え、総合得点を算出します。

【第一次募集・分割前期募集】

学力検査の得点　７：３　調査書点　スピーキングテスト結果

５００点
１００点×５教科
↓
７００点（換算後）

＋

６５点
（５教科×５）＋（４教科×５×２）
↓
３００点（換算後）

＋

↓
２０点（調査書に記載）

＝　１０２０点

⑤　不受験者の扱いについて

スピーキングテスト不受験者については、都立高校入試において不利にならないように取り扱います。

⑴ 不受験者とは、次のア又はイに該当する者とします。

ア　東京都の公立中学校等に在籍する者のうち、スピーキングテスト実施日（予備日を含む。）に、インフルエンザ等に罹患した者、学校保健安全法第１９条により中学校長が出席停止の措置を行った者及び受験者本人の責めによらず、やむを得ない理由（病気で入院、交通事故により負傷等）により受験することができなかった者

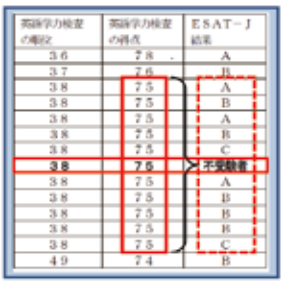
イ　スピーキングテスト実施日時点で、東京都の公立中学校等に在籍していないため、スピーキングテストを受験していない者（私立中学校在籍者、他県中学校在籍者　等）

⑵ 不受験者については、「仮のスピーキングテスト結果」を次のとおり算出します。

英語学力検査の得点で順位を決め、不受験者と英語学力検査の得点が同じ者のスピーキングテスト結果を「③評価の点数化について」に基づいてそれぞれ点数化し、その平均値により、不受験者の「仮のスピーキングテスト結果」を求めます。

その際、平均値が１８点以上はA、１４点以上１８点未満はB、１０点以上１４点未満はC、６点以上１０点未満はD、２点以上６点未満はE、２点未満はFとします。

右の表では、英語の学力検査の得点が同じ者のスピーキングテスト結果はAが３名、Bが５名、Cが２名であり、平均値は１６．４点となるため、不受験者の「仮のスピーキングテスト結果」はBになります。



英語学力検査の順位	英語学力検査の得点	ESAT-J結果
36	78	A
37	76	B
38	75	A
38	75	B
38	75	A
38	75	B
38	75	C
38	75	不受験者
38	75	A
38	75	B
38	75	B
38	75	B
38	75	C
49	74	B

なお、不受験者の換算方法の詳細は、二次元コードを参照ください。

スピーキングテスト結果の入試への活用について詳細はこちら ▸